

<美術科における活用のポイント>

- ①資質・能力の育成と関連付けて活用すること。
- ②感性や想像力を働かせる場面を大切に活用すること。
- ③発達の段階や経験に応じて適切に活用すること。

※実際に対象に触れたり見たりしながら学習することが、美術科の資質・能力の育成において重要！

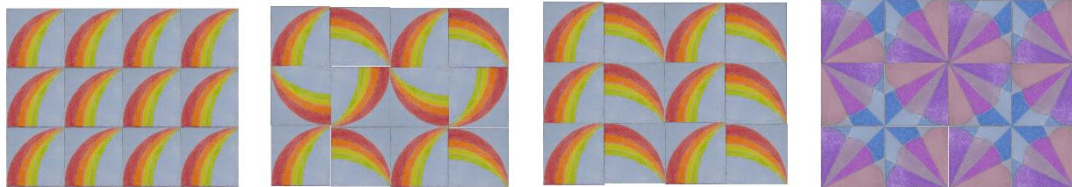
事例1 第1学年 デザイン(構成や装飾) 題材:「広がる模様の世界」

使う機能: ・カメラ  
・プレゼンテーションソフト

- ①伝統文様や身近な文様を鑑賞し、元となっている自然物等や、込められた願いについて考える。
- ②身近な自然物などの特徴やイメージ、使う場面などを基に、模様の基礎となるデザインを考え、形や色彩を工夫して表す。
- ③できたデザインを撮影し、プレゼンテーションソフトを使って、トリミング、複製、回転や移動をして構成する。

効果的ポイント

容易に複製、回転、移動、保存ができるため、いろいろなパターンを試しながら、模様を考えることができる。



事例2 第3学年 鑑賞 題材:「あの日を忘れない」

使う機能:

- ・デジタル教科書(拡大機能及びデジタル教材) ない場合は教科書のQRコードより読み込み
- ・ロイロノート 等

- ①「誕生」(池田学)を俯瞰して鑑賞し、全体のイメージを捉える。
- ②タブレット端末を活用して「誕生」の細部を鑑賞し、作品のテーマを探る。考えたテーマをグループごとにロイロノートで共有、発表する。
- ③デジタル教材を視聴し、作者の解説動画から、作品に込められた思いについて知る。

効果的ポイント

- ・拡大して作品の細部まで鑑賞することで、作者の思いや意図を読み取ることができる。
- ・気づいたことや考えたことを瞬時に共有できる。

事例3 全学年 美術の授業時間外 「私の見つけた美」(★)

使う機能: ・カメラ  
・ロイロノート 等

- ①家や学校等、生活の中で見つけた美しいと思うものを写真に撮り、感じたことをメモしておく。
- ②みんなが見つけた美しいものの画像をロイロノート等で共有したり、印刷して掲示したり、美術の時間に鑑賞したりする。

効果的ポイント

- ・カメラに記録することで、それぞれが見つけた美しいものを全員と共有でき、美しいものに気づく感性を深めることができる。
- ・直視では見逃してしまうような一瞬の美しさも留めることができる。

